

宣伝フランナー

日本機関紙協会九州地方本部
福岡市博多区博多駅南 1-9-8
ケイ・アビビル 2F 福岡県労連気付
Tel.092-433-1833
Fax.092-433-1822

ニュースづくりに力を入れれば ニュースが力を持つ！会員も増える！

「2023年度九州きかんし学校 in 熊本」24名の参加で大成功！！



講師の豊肥民商事務局長 東田伸彦氏

「2023年度第1回九州きかんし学校 in 熊本」を12月2日に熊本市国際交流会館で開催し、講師に大分の豊肥民商事務局長東田伸彦氏を迎え、「楽しく読まれるニュースの作り方～機関紙活動で組織の活性化・拡大を」というテーマでお話しいただきました。ニュースを活動の中心に位置づけることで、10年連続の増勢を勝ち取るなどの大きな成果を上げてきました。



あいさつする懸谷理事長

東田氏の示唆に富んだお話に、会場参加12名、Zoom参加12名、合計24名の参加者は、大いに刺激を受けることができました。

組織じり貧状態からの大逆転

東田さんが事務局長になった10年前は組織が衰退し、会員数は2004年の206名をピークに2011年には189名にまで減少しました。この状況は東田氏に「10年後組織が消滅しかねない、自身の仕事もなくなって

しまうかもしれない」という危機感を抱かせました。この状況を打開するために東田さんは2012年以降「紹介したくなる民商」というスローガンを掲げ改革に乗り出します。当時の理事会は「不景気だから」とか「紹介する業者がない」など消極的な声ばかりでした。そんな状況の中、東田さんの改革が始まります。東田さんは「全ての班での班会開催」「読んで面白いニュースの発行」を方針として決めました。ニュースはこれまで18年間で38回しか発行されておらず、その内容もお知らせ中心の「読んで面白いニュース」には程遠いものでした。そのためニュースを中心にした活動を進めるために、活動時間の大半をニュース作りに当てることとニュース発行のための予算を理事会で承認してもらいました。



しかし「読んで面白いニュース」と言っても簡単ではありません。悩んだ末、東田さんは「近所とか知ってる人とか身近なニュースから読む」「自分が載ったニュースを張り出した」という会員の声を思い出します。「とにかく会員を登場させれば呼んでもらえるのでは」と考え、会員が登場するニュースを毎週発行する挑戦が始まったのです。その結果、減り続けていた会員数も増勢に転じ、10年連続の増勢を成し遂げるに至りました。

楽しいニュースは作るのが楽しくなる

組織の雰囲気がからりと変わる

会員を登場させるニュースは、目論見通り会員の中で反響を呼び、組織の活性化へとつながっていきます。班会の記事では参加した会員の名前や発言を中心に

載せ、会員の商売や人生を紹介するコーナーも作りました。署名や会員拡大の訴えも事務局からの訴えではなく、会員に登場してもらって活動の様子を紹介するスタイルに変えました。そうすることで会員同士の交流が生まれ、「ニュースに載っとたね」「あの人も会員だったんだ」と会員同士の会話の中で民商が話題に上ることも多くなります。事務局でも意識的に会員とニュースの話をして興味を持って読んでもらえるように働きかけました。そうすると組織も徐々に変化してきたのです。

それまでは確定申告など自分の用事があるときにしか事務局に来なかった会員が、特に用があるわけでもないのに事務局に来ていろいろと世間話をして帰るといったことも増えてきました。そんな時東田さんはその機を逃さず会員と話をしてその内容をニュースに載せるということが続けてきました。そうした取り組みの中で豊肥民商の機関紙「たけのこ通信」は毎週発行を重ね、会員相互のつながりを深め、事務局にニュースづくりの楽しさをもたらすことになりました。

2017年「民みん広場」が誕生

このことは単に事務局のニュースづくりの楽しさにとどまらず、会員を巻き込んだニュースづくりへとつながっていきます。豊肥民商では2017年から毎月最終週に「民みん広場」という「たけのこ通信」とはコンセプトを異にするニュースを発行しています。PTA活動でニュースを作っていたという女性の会員を編集長に迎え、東田さんを含めた6名の編集部員で発行しています。「民みん広場」の紙面は、組織活動とは無縁な楽しさを前面に押し出したニュースになっています。ここではニュースづくりの楽しさを事務局で独り占めするのではなく、会員にも広げていこう

という思いがさらなる組織活性化につながっているのだと思われます。

こうした中でニュースを中心にした活動は、「ニュースが楽しいから民商やめない」ということで退会する人が少なくなり、会員が会員を紹介するという組織の活性化にもつながって10年連続の組織増勢という成果をもたらすことになりました。

ともすればきゅうきゅうとしてスケジュールに追われて新聞を発行している団体も多いのではないかと思います。一方的なお知らせではなく、読み手に楽しんでもらう、作り手も楽しく作ることで組織の活性化が図れるのだと感じさせられたお話でした。



<参加者のアンケートから>

- ・ 毎週発行には驚きました。ただ発行するのではなく、会員が会員であるという意識が高まる作り方がされているので参考になりました。
- ・ 会員一人一人を大事にして登場させる機会を積極的に取り入れることを学んだので、機関紙づくりにつなげていきたい。
- ・ カラフルでレイアウトも素晴らしく、読まれるニュースだと思いました。発行しているニュースは楽しくもなく、期日に追われて義務感でつくっているようなもので、お知らせ程度のものだったと反省しています。

【お知らせ】 2023年度九州きかんし学校 part 2

- <日時> 2024年2月3日(土) 13:30~16:30
 <会場> 福岡県労連 大会議室 福岡市博多区博多駅南 1-9-8
 ※ 会場参加とオンラインのハイブリッド開催
 <講師> KOHO株式会社 今坂 千鶴氏
 <テーマ> 「手に取って読んでもらえるニュースづくり」
 <内容> ・ ワードでつくる新聞
 ・ 読みやすく伝わる文章
 ・ 見出しのつけ方
 ・ 上手な写真活用 など

※ 詳しくは内容が決まりしだい
あらためてご案内します。